

IECでの授業・・・

1. 各担当教授陣が毎学期生徒に手渡すシラバス（各授業の指導内容・試験日・成績評価法・指導目的・指導結果などが一目で分かる指導計画表）をもとに確実に授業結果の出る徹底した指導を展開します。
2. IECの授業では、全ての授業が修士号か博士号（大学院卒業か大学院博士課程卒業）の教授陣またはこれと同等の指導能力を有する者が指導します。
3. IECの英語科専攻の授業では、ほとんどの科目が英語で指導され、一部の科目のみが第二外国語（ポルトガル語など）で指導され、日本語はほとんど使用されません。このことで、IEC入学後、一年次終了時には、英語での授業に支障を来たさなくなり、3年次からの米国大学での生活も安心して送ることが出来ます。
4. IECでの体育科専攻の授業では、半分以上の授業が英語で行われます。これは、2年後の米国大学での授業や生活に支障を来たさないようにすることの他、日本の体育指導者が、国際的視野と海外の指導者との共同研究や情報意見交換のためのコミュニケーション能力を身に付けるため、これにより、国際的研究や学識競争への大きなハンディを克服することが可能になります。
5. IECでの授業は、**英語科専攻及び体育科専攻の全ての科目が、米国大学の同学科の科目と同一の科目、同一指導時間及び同一カリキュラムで実施されます。**
6. IECでの2年間の授業を終了すると、文部科学省告示第139号の称号「専門士」の学位取得が出来ます。

米国大学での授業・・・

3年次からは学習場所が米国の大学になります。この時点で、希望の学部、専攻学科を選び、米国の大学での3年次が始まります。そして、4年次終了時には、大学卒業証書と学士号の学位を得ることが出来ます。

米国の大学での基本的な考え方は、大学は遊ぶところではなく、必死に勉強をし、卒業後に専門的学識をもって国際的に活躍できる高度な人材を育てるという意識が非常に強いところです。すなわち、一人ひとりの学習結果をきちんと出すところです。

現代社会では、世界は、意思疎通の手段として英語という言葉を用いて、学習や研究を行っています。世界の有能な専門家や学識者のみならず、一般社会の人々も、英語を用いて、それぞれの活動や研究を続けています。日本人が今の社会や今後の社会で活躍するためには、英語を日常語とし、その中で専門学習や研究ができ、結果の出る環境で学ばなければなりません。

高校卒業後からの海外大学への直接留学では、英語で授業について行くのが困難で、多くの日本人学生が現地の大学内で正規学生ではなく、語学スクール（予備校のようなもの）に入り、1～2年かけて入学できるように勉強します。しかし大半の学生が英語でのコミュニケーション不足や文化の違いなどに苦しみ、結局は目的を達することなく帰国しています。たとえ入学許可がでて、そこから初めて大学の1年生になり、合計6～7年かけて現地の大学を卒業することになります。

こういった様々な問題点を解決したのが、IEC-米国大学コラボコースです。